



大阪部会(第18回)

日 時: 2010年4月3日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

- (1) 第18回の大阪部会は12名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表から、3月に大分、大阪、東京で開催されたワークショップ、および3/20に東京・日本大学で開催された年次大会の成果報告があった。
- (2) 引き続き篠原代表から、経済教育ネットワークのweb改修、経済問題解説の掲載、ニュースレター・メルマガの担当者分散など、今後の事業予定が報告され、意見が交わされた。大きな事業として、今年も8月に東京証券取引所との共催で、中高教員のための経済研修が開かれる。名古屋、札幌、東京、大阪で計十日間の日程が決まった。また、年次大会は12/4に京都・同志社大学で開催されることになった。
- (3) 入試問題プロジェクトの検討結果は、3/20年次大会シンポジウムで取り上げられた。その概要と今後について、西村理氏(同志社大学)から報告された。今後も継続的に入試問題を検討し、良い入試問題の提案につなげる手段などが議論された。
- (4) その後、奥田修一郎氏(狭山市立南中学校)から、ワークショップ教材を用いた経済教育の進め方について、多数の経験を踏まえた報告があった。例として今回紹介されたのは、「通販はなぜ急激に成長してきたのか」をテーマに、生徒による調査・考察、通販会社経営シミュレーション、生徒へのアンケート、通販会社への問い合わせなどを組み合わせた、地理の授業実践であった。様々な工夫と、意外な結末もあって、参加者の高い興味をひいた。
- (5) 最後に、中学・高校で「直接金融、間接金融」をどう扱うかという問題に対して、松井克行氏(大阪府立三島高校)から考えが発表された。金融分野に関して「学習指導要領解説」が求めている内容は、とくに高校については非常に多くレベルも高い。それに対して中高教科書の内容は薄く、ばらばらである。金融の役割や本質を考えさせること、日本の金融の歴史学習と組み合わせることが必要だとの指摘であった。他の項目についても、指導要領、教科書、授業で補完すべきことを対応させて整理することが有効であるとの意見が出された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 未定